

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2016 年 5 月号 (第 94 号)

発行責任者 稲村 洋二

**第 5 回文化祭 (6 月 8 日中央公民館ホール・ホワイエ) 舞台部門 出演決まる！**

～仲間の輪を広げて行こう！～

事業部

No.	舞台演目	サークル名	人数	出演時刻
1	混声コーラス	楽悠クラブ	29	12 : 30
2	民話と絵で見る所沢の昔	民話の会	4	12 : 55
3	シニアダンス	所沢シニア世代地域デビュー	10	13 : 20
4	バンド演奏	とことこバンド	7	14 : 15
5	笑いヨガ	みんなで学ぼう認知症	17	14 : 40
6	ウィンザーの陽気な女房たち	ドラマティック・カンパニー	9	15 : 05
7	太鼓と踊り (同級会音頭他)	懐かしの映画・鑑賞会	20	15 : 30

【舞台部門】 7 演目 賑やかなステージになりますよ 張り切って練習中！ 大いに楽しみましょう

【展示部門】 45 点 (写真・生け花・書道・切り絵・彫刻・手工芸・サークル展示等) 11 時～16 時 30 分

＊舞台部門の途中で 30 分の休憩時間を設けます。展示品をご鑑賞ください。



← 開会宣言



← 絵画司会

← 猛練習中
(映画・鑑賞会)

ところざわ倶楽部 特別会員名簿（平成 28 年）

ところざわ倶楽部は来期 10 周年を迎えます。所沢市民大学 14 期修了生が、ところざわ倶楽部を設立しました。本会は、生涯学習の理念のもと、豊かな市民社会の実現を目指し、地域に貢献することを目的に掲げて活動しています。目的を達成するために、次の倶楽部の活動とサークル活動を行います。

- (1) 市民大学の学びを生かす (2) 学習成果を地域に生かす (3) 会員相互の親睦と情報交換
(4) 市民大学講師、特別会員とのネットワークづくり (5) その他必要な活動

また、所沢市民大学の講師及び本会が依頼した講師を特別会員としてお願いし、広報紙「広場」へ寄稿をいただいております。改めて、御礼申し上げ、先生方をご紹介させていただきます。 広報部

(敬称略)

	講座	氏名			講座	氏名	
1	音楽・文学	笠松泰洋	作曲家・演奏家	13	都市の環境	安藤聡彦	埼玉大学教授
2	歌舞伎	近藤瑞男	元共立女子大学教授	14	脳の科学	阿部和穂	武蔵野大学薬学部教授
3	音楽	藤田 明	聖学院大学名誉教授	15	放射線の科学	丸山浩一	元北里大学大学院医療系研究科客員教授
4	日本経済	浜林正夫	一橋大学名誉教授	16	日本の農業	淵野雄二郎	東京農工大名誉教授
5	地球環境	太田俊二	早稲田大学人間科学学術院教授	17	近代史	渡辺隆喜	明治大学名誉教授
6	特別教室	中 健二	農業	18	介護福祉	大久保清一郎	ロイヤル病院院長
7	所沢の歴史	門内政弘	文化財保存全国協議会員	19	正岡子規（俳句）	栗田博行	元 NHK プロデューサー
8	外交	萬歳寛之	早稲田大学法学部教授	20	朗読	石橋成子	元劇団女優
9	メディア論	門奈直樹	立教大学名誉教授	21	原発問題	滝谷紘一	元原子力安全委員会
10	地方自治	廣瀬克哉	法政大学法学部教授	22	社会教育	細山俊夫	社会教育・生涯学習研究所所長
11	日本と世界	羅 歆鎮	東京経済大学教授	23	古典	小川達雄	元高校教師
12	地域の自然	大堀 聡	早稲田大学理工学部講師				

4 月度 理事会報告

総務部長 石堂 智士

4 月 11 日（月）第 5 回開催

1. 会長挨拶

市民大学企画委員と OB3 団体の会議は、5 月 12 日午後、開催予定

2. 総務部案件

1) あり方検討委員会の進捗報告

2) 細則変更の緊急動議の提出と決議事項

当麻理事、玉上理事より、現在、定員割れのサークルの活動を継続するため、細則の一部改訂の緊急動議が出され、第 4 条第 2 項「サークルは会員 6 名以上とし、」を「サークルは原則として会員 6 人以上とし、」に改定する旨を全理事賛成で決議した。

3) 10 周年記念事業委員会の進め方を確認

3. 事業部案件

1) 4 月 1 日講演会「世界の動きと日本」の実績報告（参加者 81 名）

2) 第 5 回文化祭の実施要項の説明

日時：6 月 8 日(水)、準備 7 日午後 4～8 時
場所：中央公民館ホール及びホワイエ

3) 文芸講座は 7 月に開催予定

4. 広報部案件

1) HP を各サークル活動の PR の場として活用してほしい

2) サークル一覧表の見直しに協力要請

市民大学は今

第23期2年次も楽しく学習と交流を！

企画委員長 佐藤 重松

23期市民大学1年次の、受講生による総合評価は？満足している、まあ満足している、の合計が95.4%と大変高い評価を頂きました。

全体での講座学習を中心としながらも、盛り沢山の、過密的ともいうべき、課外授業を含めた、グループ内活動や受講生全体の横断的な交流と親睦が、熱意に満ち、活発な展開が繰り広げられました。“市民大学に学び集う”ことの楽しさを、受講生自ら積極的にプロデュースされました。

その帰結として、3名の方は健康上の問題で、やむなく断念されましたが、77名の方が2年次に進級されました。

<23期受講生GW人員構成>

美術	音楽	文学	福祉
14名	13名	7名	10名
地域自然	日本農業	まちづくり	計
15名	7名	11名	77名

GW（グループワーク） 実行最小6名・最大15名
構成要件

「テーマ」と課題をどう設定するか？

3月3日の2年次開講式とオリエンテーションを皮切りに、各グループ「同好の士」の顔合わせ、そして役割分担の確認へと進み、第一歩を踏み出しました。3月10日からのGWは、其々のグループが、どんな「テーマと課題」を掲げ取り組むべきか？先ず受講生自ら検討し合い、その内容について、3月17日以降、担当講師からのアドバイスを基にして10月の発表会をも視野に入れながら、活発に動きはじめました。とりわけ4月は各グループでのフィールドワークが盛んで、グループの親睦と結束を図る計画が実行されました。発表会ありき、と云う事ではないのですが、23期の皆さんに関しては、発表会もお楽しみに！です。



第24期6月開講に向けて

企画委員長 西郡 貢

昨年11月に22期修了生から14名が24期企画委員に就任し、22期からの継続企画委員5名の協力の下、所沢市民大学24期企画委員会が発足しました。

所沢市民大学の目的は、各人の自立した地域参加の中で地域に学びを広げ、学習の成果を社会に還元することにより「ふるさと所沢」のまちづくりに貢献することとしています。この目的に沿って、24期企画委員会ではグループ分けや講義編成の協議検討を開始しました。24期のグループ分けは企画委員が14名であり、また23期市民大学のグループが7グループで構成されていたことから、7グループで開講することにしました。2年次の講座は私達22期で受講しました、脳の科学・日本の芸能・日本の農業・音楽・所沢地域史・地方自治・地域の自然を継続することにし、1年次課程は人文科学系、自然科学系、社会科学系、所沢学系と特別講座から

構成しています。特に時代に合わせた講座、①最近の気象現象から気象システムを理解する「地球環境」②アラビア半島問題を理解する「イスラムの概要」③女性の社会進出の面から所沢生まれの女性「三ヶ島葎子」を講座に取り入れました。しかしながら懸念は、ここ数年の応募者減少の流れを止めることが出来るかでした。その為、募集パンフレット等の構成にも工夫しました。その結果は残念ながら流れを止めることが出来ず、ここ数年では最低となりました。

現在は応募者が少ない中、受講生全員が1年次から2年次へ進級する様に、22期生の轍を踏まない様、諸先輩の方々のアドバイスをいただきながら、受講生に対してどの様に対応すべきか、悩んでいる昨今です。今後は26期に滞りなく引き継ぐ様、努力していきたいと思っています。

わがサークル自慢

アジアを知り 議論し 楽しむ

アジア研究会 玉上 佳彦

ところざわ倶楽部のサークルの中では、珍しい「研究会」という名称で、やや硬いイメージがありますが、わがアジア研究会は、そのようなことはありません。メンバーは女性6名を含む計21名で、年齢層や市民大学修了期も幅広く、活発な活動を行っています。会員の中には、アジア諸国に長期間駐在された人や、出張で頻繁にアジア諸国に行っていた人も多く、経験豊富な話を聞くことができます。私達のこれまでの活動では、例えば、東京経済大学の羅敏鎮教授の講演会、参加者を2つに分けて中国が好きか・嫌いか、その理由は？——という討論会、最近のアジア情勢に関する報告会、駐在経験者の裏話を聞く会、所沢在住のアジアの人々との交流会などを行ってきました。今年は、アジアのスパイス料理講習会・調理・試食会や、外に出てアジア諸国に関係する施設などの見学会、楽しい暑気払い・忘年会などを予定しています。今後は、サークル有志による海外旅行なども企画して、現地の

庶民の生活を通して、相互理解を深めていきたいと考えています。

私達アジア研究会として自慢できることは、日々変貌し、複雑化するアジア情勢に関して、皆が問題意識を強く持っていることと、独自に学習する意欲・姿勢

があることです。そして、ギクシャクしている日本と中国、韓国との関係を、草の根レベルで改善していきたいと考えていることです。

更に、特筆すべきは、毎月の定例会の後の反省会があり、サークル



陳健新さんを囲む定例会

外メンバーも含めて、より充実した有意義な話し合いの場をもっていることです。

尚、定例会では、アジア研究会以外で、興味のある方々の随時参加・体験入会も歓迎しておりますので、いつでも自由にご参加下さい。

エッセイ



母の病気



みんなで学ぼう認知症 斉藤 博子

認知症の事を学ぼうと思ったきっかけは、84歳の母がどうも最近おかしいと思い始めたことです。進まないように薬を服用していましたが、それでも進むので新薬に変えたのですが、食欲がなくなり、妄想が出てきました。その頃丁度市民大学2年次で、指導講師の阿部和穂先生にその話をしたところ、「どんな薬も副作用がある。お母さんが90歳を超えているなら、あえて薬を飲まないでありのままに過ごされたほうが良いのではないか？」というアドバイスをいただき、思い切って薬をやめました。摂食障害や妄想はなくなり、穏やかに過ごしていました。

今年1月頃から一日の摂取量の半分しか食事が摂れなくなり、「このままだと栄養失調になります」と言われ、私達兄弟では「胃漏はしない」と話し合っていました。2月にやむなく遺漏にしました。93歳になりますが、行くと喜んでくれます。また私たちの事ははっきりわかります。そんな姿を見ると、まだまだ生きてほしいと思います。

でも夫婦では、「遺漏はしないでね!」と話し合っております。



原稿・写真を募集します

本年ところざわ倶楽部は10年目を迎えます。今年も文化祭を始め各種イベントを企画しています。広報部では、皆様のご協力のもと、10年を迎える「広場」、刷新してより充実してきたHPと日々努力していますが、今後も、より会員の皆様の声を反映できる編集を目指してまいります。皆様のご意見、エッセイ等の原稿、写真を編集部までお寄せください。(連絡先は、広報部仲山、玉上、サークル広報委員まで)

**「私にとっての昭和」
第5回****敗戦に向かっていた日々**

傍聴席 平栗 彰子

戦時下の小学生

今考えるとそれほど大層なことではないのだが、昭和一桁生まれに対して二桁世代は、なんとなく劣等感を抱いていた。少年航空隊に志願するという従兄弟の際立った凛凛しさ、集団疎開で都会からやってきた小学生等の近寄り難い悲愴感。彼らに対する後ろめたさのような感覚は憧れと表裏をなし、自分には到底なし得ないという距離感に打ち

のめされた。
南アルプスの麓の町に当り前にあった平和な日々はどんどんカーキ色になってい



飯田 天竜峡

った。小学3年生の幼稚な頭は洗脳され、叔父の戦死の公報が届くと俄かに戦争による死が身近になり、名誉とも思う風潮に染められ、戦争に巻き込まれていった。

集団疎開の子ども達が町の駅に降り立ったとき、私達は日の丸の小旗を持って出迎えた。級長の旗手が日章旗を掲げて先導し、5、60名の港区青山小学校児童が整然と現れた。学生服にゲートルを巻いた大人びた男の子もいて、女の子はお下げ髪が多く垢抜けていた。皆一様に引き締まった顔付で、もんぺ姿の私達は圧倒され、言葉もなかった。彼らはお寺で合宿生活を始め、小学校へ5分の道のりを見事に隊列を組んで行進してきた。10歳位の彼らはどれほどの辛さ、寂しさを抱えていたのだろうか。後になって疎開については様々な「実は・・・」という話が語られたが、当時の実態を今は知る術もない。私達は憧れと尊敬を秘めて、遠巻きに眺めていた。

食べ物のこと

食糧難はいなかでも同様で、農家の親戚があるとはいえ、食べ物には不自由していた。母達の食料調達苦労は大きかったと思う。買出しの往きには食料と交換できそうな衣類を担ぎ、帰りは僅かな野菜を提げて戻るといって、惨めにならざるを得ない仕事に私も何度か同行した。帰り道で川に流れ着いていた南瓜を見つけ、半分傷んでいたが拾って持ち帰ったことは忘れられない。味は思いつく出せないが、自力で食料を調達したとの思いはその後、かなり私の支えとなった。いなかの町には空襲もなく、

関東から名古屋方面に向かう米飛行機が上空を通過するだけの、のんびりした戦時であったが、夏休みに入って私は、一つ違いの弟と《疎開》することになった。山の中腹にある母方の伯母の家である。おそらく親達の、食糧事情と関わりのある判断だったと思う。出発の日の昼食は母の心尽くしの「南瓜の煮物」だった。その時の器が、空き家となっている実家に今も残っているが、チューリップの絵柄を忘れることは出来ない。

《疎開》では農家の広々とした一室で弟と寝起きした。食事は十分に用意され、6、7人の従兄弟と申し訳ないほど楽しく過ごした。その伯母の家で8月15日を迎えた。晴れた朝であった。大人たちは神妙な顔をしてラジオに向かって正座していた。その後ろに私達も並んだ。玉音は殆ど聞き取れなかった。ただ伯父や従兄弟達の薄黒い足の裏を眺めていた。

価値あるものとは

父は当時、女学校の社会科教師であった。誰もが信じてきた考え方に対して掌を返すような戦後処理は、父の生き方に強烈なショックを与えた。いわゆる「教科書の墨塗り」を経て、今まで教えてきた万世一系の天皇制、神風の吹く神の国日本は根底から否定された。突如持ち込まれた民主主義を理解し咀嚼することは不可能に近かったと思う。父は教師としての指導責任を痛感し、今後の生きる方向にも多大な不安を持ったであろう。敗戦五日目の祖父の病死とも重なって、どんどん顔色が悪くなり痩せて、不機嫌になっていった。母も一緒に寝ていった。時の流れに乗って生きる器用さを持ち合わせず、自分の始末が付けられなかったのだと思う。暮れまで胃潰瘍という病名で学校を休職した。

戦時中「贅沢は敵だ」のスローガンの下、母や祖母は、僅かな金細工や宝石等を「供出」した。祖母は唯一の宝物だった翡翠の帯止めに心残りがあったと思う。男も女も、命や大切なものを差し出し、耐え忍んだ長い時間の後に得たものは、埋め尽くせないほどの大きな空白であった。

あの時代から得ることの出来る教訓は何かと考えると、ある。翻弄されて自分を見失うほどの自立した年齢ではなかったが、周りの大人達の反応から気づくこともあった。絶対の正義というものはないということ、命より大切なものは存在しないということである。

「出会い」シリーズ第12回

音楽と共に歩んだ青春の出会い

楽悠クラブ 矢原あきら

音楽への目覚め

4月8日の誕生日に孫達から「おめでとう」と電話をもらって、自分の83年間をつくづくよい出会いがあつて幸せだったと思い出しているところ



へ、市民大学OBの編集員の方から電話で「出会い」と云う題で原稿の依頼をいただきびっくりしました。

私が生まれたのは名古屋ですが、新聞記者だった父の転勤で、小学校三年生の時に、三重県津市の小学校に転校しました。戦争で爆弾や焼夷弾の怖い経験を経て、六年生の夏に終戦を迎えました。その頃、東京から疎開してこられた娘さんが、ある日学校の講堂で一人ピアノを演奏しているのを聴き、それまで私の内で抑えられていた音楽への気持ちがカルチャーショックを受け、早速、その方にピアノのレッスンを受ける事になりました。県立女学校一年生の時、父に勧められて戦後初めて出来た「三重合唱団」に入りました。私の家は海岸に別荘として建てられた大きな家でした。そこに下宿していた「栗井さん」と云う三重医大の方が合唱団のテナー歌手だったのです。

一色信彦さんとの出会い

最初の出会いの方はその栗井さんの大の仲良しで、いつも私の家に遊びに来ていて後で有名になられた一色信彦さんです。

一色さんと栗井さんはクラシック音楽が好きで幼い私にいろいろと音楽と勉強を教えてくださいました。一緒にドイツリートを歌ったりしました。その後一色さんは京大医学部に転校して京都に行きました。私も高校生になってから合唱団を辞めて受験勉強して東京の大学に入りました。高田馬場の下宿を始めた頃、一色さんが京都から前おれもなく訪ねて来ました。新宿御苑で一日お話してお別れしましたが、おとなしい方だったのでご自分の気持ちをお話しされず、私も彼の気持ちを察する事もできずにそのままお別れしたのです。その後一色さんは京大の耳鼻科の教授になり米国のカリフォルニア大学で研究され、アムステルダムや米国各地で耳鼻咽喉の教授として講演活動をさ

れたりで、TVで何度かお目にかかり偉くなられた姿をみて懐かしく思いました。私が横浜在住の時は中耳炎で手術する事となり、京都の一色さんに電話したら京都弁でいろいろ話され、入院する病院の先生を紹介いただき何かとお世話になりました。先生は韓国の有名なオペラ歌手が喉の疾患で声が出なくなった時も治療されましたが、その模様がTVで放映された時は見ていてとても懐かしく思いました。そのオペラ歌手は完治され、昨年来日しリサイタルが開かれました。先生は現在形成外科に移り京大名誉教授の要職にあり、「一色クリニック」院長でもあります。また『声の不思議』という本を出版、TV出演など多岐にわたり活躍されていて、私にとってはこの上ない出会いだったとずうっと思っています。

内田健三さんとの出会い

もう一人の私の出会いの方は私が大学三年生の時、父が三重県津市から東京の共同通信本社へ転勤になったころです。会社でアルバイトを募集中和聞き応募しました。その時に人事部にいたのが後に政治評論家で有名になられた内田健三さんでした。アルバイトのお世話をさせて頂いたり、お互いクラシック音楽や文学の話等で親しくお付き合いするようになりました。丁度来日した米国のヴァイオリニスト「ヤッシャ・ハイフェッツ」の音楽会に行ったり、アルバイトの帰りに日比谷公園からお堀端をデートしました。内田さんは東京大学から戦争に行きシベリアに抑留され、日本に帰国されたが、後に肺結核を患い苦勞したと聞きしました。その後私は何度かお誘いを受けたり、お手紙もいただいたのですが、気が向かず縁が遠くなりました。政治評論家としてテレビで何度も出演されて活躍している姿を拝見しました。六年位前に亡くなられた事を新聞で知り私の青春の一片を思い出しました。

戦後幼かった私が素晴らしい方々に出会い、人生経験をしてきましたが、その何時も音楽と共に歩んで来た青春時代だったと思います。立派な方々との「出会い」があつた事にまた現在も大勢の素晴らしいお友達、先生に巡り合えている事を本当に幸せだと感謝しています。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか

1. 葵の会 (池田新八郎 2940-0711)

5月19日(木)長瀬散策(宮沢賢治の足跡をたどる)

6月9日(木)古典講座「方丈記」第5回

中央公民館 13:30～16:00

※5月の古典講座は休講となります。

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

5月12日(木) 所沢駅 8:55発 飯能行きに乗車

高麗神社探訪「野老澤の歴史をたのしむ会」に合流

6月15日(水) 9:30 ふらっと スパイス料理講習会・試食

3. 活いきシニア福祉の会(佐藤 重松 090-5412-5760)

5月18日(水)第18回定例会(生涯学習センター2F コミ)

5月25日(水)「所沢市に於ける医療・介護」の学習会

午後1時～3時(生涯学習センター102号室)

*高齢者にふりかかる、避けては通れない問題です!

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要)

5月17日(火)歌劇「魔笛」宮本亜門演出、二期会公演

6月14日(火)歌劇「ローエングリン」(ワーグナー)

出演:ドミンゴ、他 指揮:アバド、ウーンフィル

いずれも(場)中央公民館 # 8,9学習室 13:15～

5. 食を通して所沢を知る会 (吉田 麗 2939-9662)

5月10日(火) 10時～12時 定例会 ふらっと

「地産地消料理コンテスト」応募のための打合せ

6月7日(火) 10時～12時 定例会 ふらっと

料理コンテストの試作料理作り

6. 地域の自然 (赤木 隆弘)

調整中

7. 地域の自然を考える会 (海老澤愛之助 2922-0259)

5月24日(火)10時～ 定例会 トロ12号地手入れ作業

トロ財団の取得地の管理を定期的に行っています。環境保全に関心のある方の参加をお待ちいたします。

単発の参加で結構です。 ご連絡は海老澤 迄

8. 地球環境に学ぶ (塚本 二郎 2942-3117)

5月17日(火)9時～定例会 新所沢東公民館

5/25(水)日本科学未来館見学会の最終調整他

6月21日(火)9時～定例会 新所沢東公民館

*新所沢東公民館空調工事の為 10～1月柳瀬公民館予定

9. ところ会 (居田 治 2903-8400)

5月12日(木):江戸城三十六見附を廻るーその1

6月17日(金):所沢を散策する:

入曽～新所沢の鎌倉街道上道とその周辺

7月01日(金):浅草～水上バス～浜離宮、築地

10. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口 元也 090-9820-5668)

5月10日(火) 13～15 定例会中央公民館 1階 学習室

議題 ①講座「なんでも塾」開講に向けた方針討議

②文化祭出し物打ち合わせ

11. 所沢の自然と農業 (清水 仁一 2944-8835))

5月9日(月)～11日(水) 長野県りんご農家ボランティア

5月12日(木) 13:00～定例会 新所沢公民館

5月20日(金) 東京農工大・所沢養蚕農家共同事業支援

6月9日(木) 13:00～定例会 新所沢公民館

12. 野老澤の歴史をたのしむ会 (大山 豊 2993-0818)

5月12日 高麗神社 1300年の歴史見学

5月19日 トロの森を歩く

6月2日「所沢の鉄道遺跡」探訪

13. ドラマティック・カンパニー (佐藤 滋 090-1540-0161)

5月7日(土) 10:00～12:00 中央公民館

5月28日(土) 10:00～12:00 新所沢東公民館

6月4日(土) 10:00～12:00 新所沢東公民館

当日は「夏の夜の夢」を読み進める、文化祭上演作品の練習

14. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

・5月10日(火) 10時～12時30分 西新井町公民館

■邦画「おとうと」'60年大映 岸恵子・川口浩・田中絹代

・5月24日(火) 10時～12時30分 西新井町公民館

■洋画「太陽の帝国」'93年スピルバーグ監督 戦時下の上海

15. 北欧の会 (樋口 俊夫 090-6483-7993)

5月25日(水) 9時5分所沢駅改札口内側集合

第68回例会 日本科学未来館見学と会食

6月28日(火)14時00分～DVD鑑賞他

新所沢東公民館

16. 傍聴席 (高垣 輝雄 2926-7164)

5月16日(月)14時～ 学習会、新所沢東公民館

テーマ: ①会員講師による、まちの財政を考える切り口

②3月議会を傍聴しての意見交換

(詳細は倶楽部のHPをご覧ください)

17. みんなで学ぶ認知症 (本橋 清子 2944-1555)

5月23日(月)10:00～15:00 定例会「ところ荘」

本年度定例会行事計画を練る・文化祭の予行練習

18. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

5月20日(金)10時～12時30分 定例会

中央公民館 学習室1号

6月8日(水) 10時～12時30分 文化祭出演、民話「河

童の詫び証文」、「絵で見る昔の所沢の風景」を語ります

19. 歴史散策クラブ (大河原 功 2943-2004)

5月14日(土)見沼代用水を歩く

集合:所沢駅 2階9:00

6月11日(土)野川の遺跡を歩く

集合:所沢駅 2階9:00

広報部会議

5月6日 広場 編集会議 5月号発行日

6月10日 広場 編集会議 6月号発行日



【私の健康法 第36回】 狭山丘陵で自然に親しむ

歴史散策クラブ 当麻 実

あと何十年、いや何年健康で生活できるだろうか、と思う年齢になりました。先日、眼科を受診したら「白内障ですね」といわれました。人生70代に入ると多くの人がなるそうです。気持ちは「まだまだ若い」と思っている、写真を見ればやっぱり「じいじ」の顔です。

ぼくも人並みに持病があります。60代まで医者まかせ薬まかせで過ごしてきましたが、「自分の体ではないか、もっと努力せよ」と反省しました。でも、あまりむずかしいことはできない。ひとりで気軽にできること、それは歩くことです。ぼくの家は起伏のある狭山丘陵の地にあります。

数年前、丘陵の尾根の小道を狭山湖・多摩湖へ、美しい湖面を眺めながら久しぶりに10キロ以上歩いてみました。だが、足にマメができてしまい、そのため何回か「バンドエイド」を持参して歩いたことを思い出します。

いまでは東西11キロ、南北4キロの県境・都境の狭山丘陵のいろいろな小道を歩いています。健康のために足腰を鍛えることも大事ですが、狭山丘陵の雑木林、小鳥のさえずり、野の花などは心をいやしてくれます。急いで歩くのではなく、自然に親しむことも生きる喜びとなります。

うれしいことに狭山丘陵には、「緑の博物館」「いきものふれあいの里」「各地の郷土博物館」「都立公園」「トトロの森」など丘陵の自然と歴史を学ぶ場がたくさんあります。野に咲く小さな「スマイル」ひとつとっても何十種類も自生しているそうです。足元の自然から学ぶことも大ですね。



むさし野俳句会（二十八年四月）作品抄



花衣軽く叩きて吊りにけり
春逝くや地震の暴走止まぬまま
純喫茶窓辺に座り春惜しむ
かの年の写真にとどむ花衣
庭園の芽吹ききの光り書院窓
初桜歴史を生きし箴欄間
花筵真ん中占むる稚児かな
江の島の生しらす井春惜しむ
十代の夢は何色桜咲く
泡一面鯉の季節や水温む

高橋三加子
高光 泉
利根川啓一
中嶋 弘子
中村 直子
橋本 佑子
平栗 彰子
宮本 信生
荒幡千鶴子
飯泉 陽子

父のこと記憶に遠し青葉木菟
一高の名残り榊堂花銀杏
花ごろも上野にチヨゴリアオザイも
菜の花や沖を行き交ふ貨物船
キャンパスを埋むる立看入学期
校内の銀杏並木の芽吹きかな
新入生来たれといちやう並木かな
カフェラテの甘さに適ふ花疲れ
クリスタル窓七色に春日さす
会へば皆十五に戻り春惜しむ

井出 昇
海老澤愛之助
粕谷のぼる
河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
鈴木 征子

《編集後記》

昨年の文化祭の演目にコーラスがあり、私もたまには声を出してみたいと感じた。昨年11月の総会後の懇親会で楽悠クラブの荒木さんと同じテーブルに着きコーラスの事をお聞きしたら、楽悠クラブ以外の人も一緒に出演されていたとお聞きした。よろしければ次の機会には私も入れて頂けないだろうかとお願ひしてみた。2月の末になってどうしますかと声を掛けて頂いた。中学生の頃に文化放送（だったと思う）の学校音楽コンクールで、優秀賞は逃したものの、それ以外は同列で良かったですと講評を頂いたのが、嬉しく心に残っていた。いざとなると皆についていけるか不安はあったが、喜んでお仲間に入れて頂いた。1回2時間声を出しメンバーの方々と特別の話で盛り上がる事はないが、新しく顔見知りになった方が20名以上も出来、新しい趣味としてこれからも何らかの形で係わって行くことが出来れば楽しいと思っている。（海老澤）

「広場」問い合わせ 仲山 富夫 (090-3902-0283)

川柳⑨

作品発表

中島峯生 選

課題「朝」

おんどりがめんどり起こし時告げる
朝おきてコーヒー二つ安堵する
新調の制服揃う四月朝
朝ごはん二人で準備昼あなた
朝寝坊お若いのねと老妻がいう

「自由句」

化粧して軽い足取りじじに会う
泣いたつてもどりませんよ君の皺
香水と女の香はオリジナル
知恵袋はあちゃんよりもネットから
痛いのが飛んで行かない年になる
大型の連休きてもときめかず

どうし
丘の河童
海さとり
りんご好き
庵閑子
老夫婦

次回 課題「スッキリ」又「自由」五月二十日 担当中島まで

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp

FAX04-2928-1161